

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1475201107
法人名	特定非営利活動法人のぞみ
事業所名	のぞみの家 宮内
訪問調査日	令和7年11月19日
評価確定日	令和7年12月15日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475201107	事業の開始年月日	平成17年5月1日
		指定年月日	平成18年5月1日
法人名	特定非営利活動法人のぞみ		
事業所名	のぞみの家 宮内		
所在地	(〒211-0051) 川崎市中原区宮内3-10-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和7年11月10日	評価結果 市町村受理日	令和7年12月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で暮らせる様に入居者様と家事などの役割分担をしたり、コミュニケーションを通して自立した生活を目指し、体操などのレクリエーションに力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和7年11月19日	評価機関 評価決定日	令和7年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は特定非営利活動法人のぞみの運営です。同法人は旭区で1ヶ所、栄区で1ヶ所、川崎市で2ヶ所、藤沢市で1ヶ所、鎌倉市で1ヶ所、計6ヶ所のグループホーム、瀬谷区で訪問介護事業所を1ヶ所運営しています。「のぞみの家 宮内」は法人で2番目に開所した事業所であり、平成17年5月の開所から今年で20年目を迎えた法人内でも歴史と実績あるグループホームです。立地はJR南武線「武蔵中原駅」から徒歩15分程の場所にあり、同じ敷地内に同法人が運営している「のぞみの家i」が隣接して建っています。

●事業所では現在、業務改善や働きやすい職場環境作りに向けた改革に着手し、職員の定着率向上や業務の効率化を目指しています。具体的な取り組みとして、マニュアルの作成や、書類の保管場所や配置の見直し、新たにグループLINEを作成して情報共有ツールを増やすなど、きめの細かいケアサービスを提供できるよう改革を行っています。また、今年で開設20年を迎えたことを機に、現在働いている職員の介護に対する思いを集約して、新たな事業所理念を作成することを検討しています。

●職員教育については、入職時に法人の理念や運営方針、身体拘束・虐待防止、認知症ケア、感染症をはじめとした研修を行い、その後6ヶ月のOJT期間を設け、利用者の情報、ケアの注意点、業務、技術面など内容を細かく細分化して指導を行い、毎月チェックシートや振り返りシートの提出を求め、理解度や進捗を把握しながら独り立ちに向けて教育を行っています。また、管理者は、川崎市の介護職員初任者研修受講・就労促進事業及び川崎市実務者研修受講・就労促進事業を活用して職員の初任者研修や実務者研修の取得を促したり、法人の資格取得支援制度を活用して外部研修を促すなど、研鑽を図るとともに、職員のスキルアップにつなげています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	のぞみの家 宮内
ユニット名	1F あじさい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議やカンファレンス等でも理念について触れている。入職者には、都度 オリエンテーションで伝え共有している。	法人の理念「安心・安全・快適な福祉サービスの提供」は事務所に掲示され、事業所独自の理念は廊下に掲示しています。理念に「笑顔で明るく挨拶と会話をしよう」を掲げ、利用者のみならず来訪された家族にも「笑顔で明るく挨拶」を心がけています。開所20周年の節目に伴い、事業所独自の理念を一新する予定としています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等でご家族や近隣住民の方にも参加頂き、地域の行事にも積極的に参加している。地元お祭り等。	自治会に加入しており、回覧板を通じて地域の情報を入手しています。春日神社のお祭りで出る神輿の神酒所として事業所の駐車場を提供し、目の前でお神輿の見学をさせていただいています。また、月1回宮内公民館で開催される「宮内カフェ」には数名の利用者をお連れしてして地域の方との交流を図っています。隣接している「のぞみの家i」には小学校の職場体験を受け入れているので「のぞみの家 宮内」でも受け入れていきたいと考えています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。地域ケアマネとの交流にて緊急ショートを受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、ご家族様の意見を参考にし、カンファレンスなどで、周知徹底をし、実地グループホーム連絡協議会にも参加している。	運営推進会議は単独で年3回、残りの3回は隣接している「のぞみの家i」、近隣のグループホームと合同開催しています。次回の運営推進会議では、これまで参加を得られなかった家族も7組み参加予定であり、事業所の現状や状況報告等を説明しながら取り組みに対して理解を得る場にしたいと考えています。運営推進会議の議事録は、自由に閲覧できるよう事務所付近に設置しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。	川崎市健康福祉局高齢者事業推進課から発信される情報収集に努め、研修案内や川崎市主催の事業への参加や補助を活用しながら事業所運営を行っています。グループホーム連絡会に連絡会に参加しており、4ヶ月に1回「宮内公民館」を会場として、他事業所との情報共有を図りながら協力関係の構築に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月の全体会議にて身体拘束について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待について研修も実施。	身体拘束委員会は毎月開催している全体会議の中で、当日参加の職員をメンバーとして行っています。委員会では各ユニット内における身体拘束の有無や対応に苦慮している利用者について話し合い、身体拘束の未然防止に努めています。年2回の研修は近隣のグループホームと合同開催とし、1回の研修を2日間に分けて開催することで全職員が参加できる体制を取っています。研修参加後は報告書の提出を義務づけています。	今後の継続	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、毎月の全体会議にて虐待について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待について研修も実施。	虐待防止委員会も身体拘束委員会と同様に全体会議の中で当日参加の職員をメンバーとして開催しています。各ユニット内における身体拘束の有無や対応に苦慮している利用者について話し合い、虐待防止に努めています。年2回の研修は近隣のグループホームと合同開催とし、1回の研修を2日間に分けて開催することで全職員が参加できる体制を取っています。研修参加後は報告書の提出を義務づけています。身体拘束・高齢者虐待防止の指針やマニュアルは法人で作成されたもの共通として整備しています。	今後の継続	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人を利用している方もいます。今回も後見人を利用される方がおりましたので、一部の職員では有りますが、後見人制度について学ぶ機会がありました。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者会議・全体会議にて共有し、実施している。	重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について契約時に説明しています。家族の来訪時には近況報告と併せて意見や要望を伺うようにしています。外部評価受審に伴う家族アンケート結果も職員と共有しながら、運営に反映させるよう心がけています。利用者の意見・要望は日々の関わりの中で汲み取るようにしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や、全体会議で意見を聞き、反映させている。全体会議には、理事長・副理事長も参加し、直接職員と今後する場をを設けています。	事業所では全体会議(月1回)、正職員会議(随時)があり、全体会議には1,2階の職員、法人の理事長、副理事長も参加し、利用者情報をはじめ、ケアや業務内容についての話し合い、現場職員からの声を吸い上げています。また、法人本部で開催される管理者会議では、各事業所の運営状況、課題や問題を共有しながら法人全体で解決を図っています。管理者会議の内容で必要と判断したものについては正職員会議で共有しています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課制度を実施、個々の実績に応じ評価している。個々の特技を生かす活動する場を作っている。	年2回の人事考課は、自己評価シートの内容を基に管理者と面談を行い、最終的に理事長の判断で賞与に反映されています。福利厚生として、法人がエクスプ会員となっていることからホテルの割引利用や、産業医から処方箋を出してもらうこともできます。さらに、職員が意欲や向上心を持って勤務できるよう初任者研修や実務者研修受講をはじめとした、資格取得支援制度もあります。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修の推進を実施、費用等も法人負担にて受け入れるよう配慮し、法定研修も毎月実施している。入職時にはOJTにて指導を行い、チェックシートや振り返りシートにて確認している。	入職時には、法人の理念や運営方針、身体拘束・虐待防止、認知症ケア、感染症をはじめとした研修を行っています。その後は6ヶ月のOJT期間を設け、利用者の情報、ケアの注意点、業務、技術面など内容を細かく細分化して指導を行い、毎月チェックシートや振り返りシートの提出を求め、理解度や進捗を把握しながら立ち向けて教育を行っています。管理者は、川崎市の介護職員初任者研修受講・就労促進事業及び川崎市実務者研修受講・就労促進事業を活用して職員の初任者研修や実務者研修の取得を促したり、法人の資格取得支援制度を活用して外部研修を促すなど、職員のスキルアップにつなげています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会など参加にて、交流に努めている。地域包括を交えて、他グループホーム3社と、公民館を利用し、月1回カフェを実地している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族・ご本人より聞き取りシートにてご要望を伺い、プランに反映させる。居室担当により、ご本人から要望を聞き、不安の解消をすることにより、信頼関係を築く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族・ご本人より聞き取りシートにてご要望を伺い、プランに反映させる。ご本人の要望を聞きながら、不安の解消することにより、信頼関係を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族・ご本人より聞き取りシートにてご要望を伺い、プランに反映させる。居室担当により、ご本人から要望を聞き、不安の解消をすることにより、信頼関係を築く。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、出来ることはやって頂き、出来ないことを支援することを大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添い、ご家族も一緒に支援して行く事を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活で築いた関係を大切に、なじみの方との交流を継続できるよう努めている。	現在は面会制限を設けず、自由に面会していただいています。家族の来訪頻度は人によって異なりますが、1週間に1回の頻度で家族が来られ方や、近所の方が時々面会に来られる方もいます。携帯電話を持ち込まれている方も2名おり、充電などの管理は職員が支援しています。手紙や年賀状、電話の取次ぎ支援も行いながら、馴染みの人との関係性を継続できるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も、お互いに気遣い、支え合える関係が出来るよう支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老老介護の現実の中で、入居者様のお子様達も高齢な方が多いので、支援が必要な時は手を差し伸べられる関係性に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	おひとりおひとりの要望になるべく応えられるよう、居室担当を設け、職員が個々に関わることで意向の把握に努めている。	入居前面談で、本人や家族から過去の生活歴、既往歴、趣味、嗜好品、暮らし方希などを聴き取りながらアセスメントシートを作成しています。入居後は事前に得られている情報を基に利用者に関わりながら思いや意向の把握に努め、利用者の心身の状態を考慮しながら思いや意向に沿った支援につなげています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを元に、入居前の生活が継続できるよう、入居者様やご家族の意向に沿った支援ができるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立を尊重し、個々の有する能力に応じた個別ケアに努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等にご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。	アセスメントシート情報を基に初回の介護計画を作成し、入居1ヶ月間は支援しながら利用者のADLやIADLに関する情報に齟齬がないか情報収集に努めています。毎月のユニット会議では、数名の方を対象に利用者の情報共有やケアの内容を確認しながらモニタリングを行っています。介護計画の見直しについては、短期3ヶ月、長期6ヶ月を基本としていますが、特変があった方はその都度アセスメントを行い、介護計画の見直しを行っています。ケアマネジャーは週1回出勤して、ケース記録や職員から聴き取りを行い、利用者に関する情報を把握しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等にご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公民館で開催の、認知症カフェへ参加し、地域住民との交流を図っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族の意向を伺い、今までの掛かりつけ医を継続するか、それとも施設の嘱託医に移行するかを確認、ご希望に沿う対応に努めています。	入居時に本人と家族の意向を確認して主治医を決めていただくようにしています。事業所の協力医療機関に切り替えている方、従来の主治医を継続している方がおり、現在は4ヶ所の内科医が月2回の往診があります。歯科医は無料検診後に必要な方のみ契約し、治療や口腔ケアを受けています。主治医の往診時に看護師と薬剤師も同行しており、助言や相談にのっていただきながら適切な体調管理を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を契約、個々の状態変化を共有し、入居者様の健康に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療関係やご家族との連絡を密にし、早期退院できるよう対応、退院後も安心して戻って頂けるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、医師の診断の元、ご家族様と話し合い、十分な説明、同意の元、指針を共有し、お看取りの支援に取り組んでいます。	入居時に重度化や終末期ケアに関する指針を説明し、同意書を取り交わしています。事業所では医療行為を必要としない場合は看取りまで行う方針であり、今年度は2名の方を看取っています。事業所の年間研修でも看取りに関する研修を行い、看取り対応ができる体制を整えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、訪問看護師、管理者に報告、アドバイスを貰える体制は出来ているが、職員個々の判断で応急手当や初期対応が難しい現状なので、研修を実施、実践力を身につけていきたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している、地域住民との協力体制の構築には至らず、今後の課題として、近隣住民も交え防災訓練の実施を目指したい。近隣GHとの合同訓練を作っている。	年2回の防災訓練は利用者にも参加していただきながら避難誘導、通報、水消火器を使用した消火訓練を行っています。近隣グループホームと合同訓練も実施し、有事の際に連携が取れるようにしています。備蓄品は、3日分の水や食糧、衛生用品、懐中電灯、カセットコンロを敷地内に設置している防災倉庫にて保管、管理しています。地域との連携や協力体制の構築については、引き続き今後の課題として取り組んでいきたいと考えています。BCPのマニュアルも策定され、研修も年2回実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、言葉かけには職員同士でも常に注意し合いながら、自尊心を傷つけない言葉使いや対応に努めている。	利用者の人格やプライバシーを損なうことのないよケアを実践するために、お伺いをたてる声かけや、利用者の言葉を否定しないようことを職員に徹底して伝えています。また、年間研修項目にも「認知症ケア」「倫理」「法令遵守」「接遇マナー」を毎年取り入れ、繰り返し行うことで理解を深めています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当制を設け、ご家族やご本人の思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースを大切にし、ご自身の希望に沿った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が髪の毛のカットや毛染等、自由に選択出来るよう、訪問理美容を利用して頂いています。入浴時の着替えについても、ご本人で選択出来る方については一緒に準備をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提携会社による献立より材料を仕入れ、事業所内でお手伝いの出来る方にはお手伝いをして頂き、手作りをしています（事業所の売りの一つです）片付けもご利用者様が積極的にお手伝いしてくれています。	法人の関連会社「リフレ」から食材を発注し、職員が調理した手作りの食事を提供しています。キッチン専任の職員も2名採用しており、その職員が出動している時には、他の職員は利用者のケアに専念できる体制を整えています。行事食の時にはメニューだけでなく、盛り付ける食器も変更しながら特別感を感じていただけるようにしたり、お楽しみメニューも定期的に取り入れています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・排泄チェック表を記録し、個々の食事・水分量の把握に努め、個々に応じた対応の支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態確認、異常が有るときは直ぐに提携歯科医へ繋がっています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については、おひとりおひとりの排泄パターンを把握し、自立の方は見守りにて行って頂き、介助が必要な方についても、座位の保てる方についてはトイレに座って頂いています。法人全体でおむつゼロ作戦を実施し取り組んでいます。	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、定時やタイミングを見計らった声かけでトイレ誘導を行っています。座位を保てる方にはトイレで排泄していただくことを基本とし、必要な支援を行っています。自立の方は原則見守りながら必要以上に介入しないことで羞恥心やプライバシーにも配慮しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水便・排泄表を確認、特に水分摂取には留意し、飲食や運動での改善も併せて、個別の対応に努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴日を設定していますが、その日のご本人の意向を考慮し、無理強いしない支援に努め、又ご要望に応じ、同性介助にも留意しています。同一敷地内にある施設に、機械浴の方は、行ける様なたいせいを取っている。	週2回の入浴を基本とし、本人の意向や体調を考慮しながら、無理強いすることなく入浴支援を行っています。事業所は一般浴ですが、重度化した方は同敷地内の「のぞみの家i」に導入されている機械浴を使わせてもらうことで対応可能となっています。ゆず湯、菖蒲湯などは取り入れています。入浴剤は使用していません。入浴後には保湿クリームの塗布や水分を摂っていただくようにして、乾燥や脱水にも留意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のご自身のペースで自室で休息したり、好きに過ごせるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の服薬について、目的や副作用についても理解し、変更の際は申し送りや、往診記録等で、情報共有を行い、全職員に周知しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてお手伝いをして頂いたり、嗜好品・楽しみ等を把握し、個別の支援に努めています。			
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部のご家族は週1回ドライブ等実施、支援頂いています。隣の公民館で行う認知症カフェに参加したり、天気の良い日は近隣の公園に散歩に行くなど、少しずつ実施出来ている。	天気や気候の良い日には、近隣の公園まで散歩にお連れしたり、玄関先に設置しているベンチで外気浴、今年の5月から敷地内に設置された自販機で飲み物を買に行くなど、外気に触れる機会を作るようにしています。事業所前の公民館で開催される「宮内カフェ」にも数名の利用者をお連れして地域の方との交流機会も持てるようにしています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、お小遣いとしてご家族よりお預かりし管理していますが、現在ご自身でお金を使用できる方がいないので、ご希望に応じ、職員が嗜好品の買い物の支援を行っています。又施設内の自販機でジュースを自身で選び飲んで頂いています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話をお持ちの方もいますので、自由に連絡の出来る支援をしています。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日清掃し、整理整頓することで、居心地よく過ごせる空間づくりをしています。	共用空間は皆が集まって過ごす空間であることから、常に整理整頓を心がけ、利用者が混乱したり、不快に感じることなく過ごせしていただける空間作りを心がけています。リビングはキッチンと事務所の両方から見守ることができる造りになっており、常に職員が目が行き届くようになっていきます。廊下はL字の造りになっていることから、天井にミラーを付ける等の工夫もされています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様同士が、お互いにお部屋を行き来し、おしゃべりする等、思い通りに過ごせる空間作りに努めています。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居様については、使い慣れた家具やお好みの物を取り入れた空間作りに留意しているなるべく安心でき、落ち着いて過ごして頂ける空間作りに努めています。	入居時には使い慣れた家具や寝具を自由に持ち込んでいただき、馴染みある物や思い出の品に囲まれながら、落ち着いて過ごせる空間づくりをお願いしています。ADLの変化によっては、家族と相談して配置替えや模様替えを行うこともあります。各居室には温度計、湿度計が設置され、適切な環境下で過ごせるように調整しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身のお部屋の入口に表札を設置したり、トイレ等もわかりやすく案内板を設置する等ご入居様が安心・安全で過ごして頂く空間作りに努めています。			

目 標 達 成 計 画

事業所 のぞみの家 宮内

作成日 令和7年11月19日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念が共有されてなく、チームワークがない。離職率が高い。	「働く意義」を考えモチベーションの向上ケアに生かす。	新人研修やオリエンテーションにて理念を学ぶ機会を設ける。日々の義務と理念を結びつける。	12ヵ月
2	10	職員一人ひとりの力量が発揮出来ていない。	個人目標を設定し実行する。振り返り成長する。	OJTや集合研修を実施する。現場は一体となって育成に関わるチェックシートを利用する。	12ヵ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	のぞみの家 宮内
ユニット名	2F こすもす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議やカンファレンス等でも理念（安心・安全・快適な福祉サービスの提供）について触れてはいるが、職員の入れ替わりが多く、外国人実習生への共有にも苦慮しているが引き続き時間をかけしっかりと共有に努めたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等でご家族や近隣住民の方にも参加頂き、地域の行事(宮内カフェ)にも積極的に参加し地域住民との繋がりを築いていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。地域ケアマネとの交流にて緊急ショートを受け入れもを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2～3ヶ月ごとの運営推進会議を実施、グループホーム連絡協議会にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月の全体会議にて身体拘束について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待について研修も実施。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、毎月の全体会議にて虐待について触れている。年2回、近隣のグループホームと合同で身体拘束・虐待について研修も実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人を利用している方もいます。今回も後見人を利用される方がおりましたので、一部の職員では有りますが、後見人制度について学ぶ機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所の際 利用者の状況を報告し意見などを聞いている。 管理者会議・全体会議で共有し改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や、全体会議で意見を聞き、繁栄させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課制度を実施、個々の実績に応じ評価している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修の推進を実施、費用等も法人負担にて受け入れるよう配慮し、法定研修も毎月実施している。入職時にはOJTにて指導を行い、チェックシートや振り返りシートにて確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会など参加にて、交流に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族・ご本人より聞き取りシートにてご要望を伺い、プランに反映させる。居室担当により、ご本人から要望を聞き、不安の解消をすることにより、信頼関係を築く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族・ご本人より聞き取りシートにてご要望を伺い、プランに反映させる。居室担当により、ご本人から要望を聞き、不安の解消をすることにより、信頼関係を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントを元に、入居者の生活が継続出来るように、入居者やご家族様の意向に沿った支援が出来るように努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、出来ることはやって頂き、出来ないことを支援することを大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちに寄り添い、ご家族も一緒に支援して行く事を大切にしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活で築いた関係を大切に、なじみの方との交流を継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も、お互いに気遣い、支え合える関係が出来るよう支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老老介護の現実の中で、入居者様のお子様達も高齢な方が多いので、支援が必要な時は手を差し伸べられる関係性に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	おひとりおひとりの要望になるべく応えられるよう、居室担当を設け、職員が個々に関わることで意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを元に、入居前の生活が継続できるよう、入居者様やご家族の意向に沿った支援ができるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立を尊重し、個々の有する能力に応じた個別ケアに努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等にご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等にご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月カンファレンスを行い、個々の状態の把握とケアの内容を確認、変更等にご家族へも確認、了承を頂き、介護計画へ反映している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公民館で開催の、認知症カフェへ参加し、地域住民との交流を図っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族の意向を伺い、これまでの掛かりつけ医を継続するか、それとも施設の嘱託医に移行するかを確認、ご希望に沿う対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を契約、個々の状態変化を共有し、入居者様の健康に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療関係やご家族との連絡を密にし、早期退院できるよう対応、退院後も安心して戻って頂けるよう努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、医師の診断の元、ご家族様のご意向があれば、ご家族様と話し合い、十分な説明、同意の元、指針を共有し、お看取りの支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、訪問看護師、管理者に報告、アドバイスを貰える体制は出来ているが、職員個々の判断で応急手当や初期対応が難しい現状なので、研修を実施、実践力を身につけていきたい。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施しているが、地域住民との協力体制の構築には至らず、今後の課題として、近隣住民も交え防災訓練の実施を目指したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、言葉かけには職員同士でも常に注意し合いながら、自尊心を傷つけない言葉使いや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当制を設け、ご家族やご本人の思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースを大切にし、ご自身の希望に沿った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が髪の毛のカットや毛染等、自由に選択出来るよう、訪問理美容を利用して頂いています。入浴時の着替えについても、ご本人で選択出来る方については一緒に準備をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	提携会社による献立より材料を仕入れ、事業所内で、お手伝いの出来る方にはお手伝いをして頂き、手作りをしています（事業所の売りの一つです）片付けもご利用様が積極的にお手伝いしてくれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・排泄チェック表を記録し、個々の食事・水分量の把握に努め、個々に応じた対応の支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態確認、異常が有るときは直ぐに提携歯科医へ繋がっています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については、おひとりおひとりの排泄パターンを把握し、自立の方は見守りにて行って頂き、介助が必要な方についても、座位の保てる方についてはトイレに座って頂いています。法人全体でおむつゼロ作戦を実施し取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水便・排泄表を確認、特に水分摂取には留意し、飲食や運動での改善も併せて、個別の対応に努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴日を設定していますが、その日のご本人の意向や意向を考慮し、無理強いない支援に努め、又ご要望に応じ、同性介助にも留意しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のご自身のペースで自室で休息したり、好きに過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人の服薬について、目的や副作用についても理解し、変更の際は申し送りや、往診記録等で、情報共有を行い、全職員に周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じてお手伝いをして頂いたり、嗜好品・楽しみ等を把握し、個別の支援に努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部のご家族は週1回ドライブ等実施、支援頂いています。隣の公民館で行う認知症カフェに参加したり、天気の良い日は近隣の公園に散歩に行くなど、少しずつ実施出来ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、お小遣いとしてご家族よりお預かりし管理していますが、現在ご自身でお金を使用できる方がいないので、ご希望に応じ、職員が嗜好品の買い物の支援を行っています。又施設内の自販機でジュースを自身で選び飲んで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話をお持ちの方もいますので、自由に連絡の出来る支援をしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族やご本人の意向を伺って、ご家庭と同じような設えを支援しています。又なじみのある家具や小物等も自由に持ち込んで頂いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様同士が、お互いにお部屋を行き来し、おしゃべりをする等、思い通りに過ごせる空間作りに努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居様については、使い慣れた家具やお好みの物を取り入れた空間作りに留意しているが、泊りのご利用者様については、なるべく安心して、落ち着いて過ごして頂ける空間作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身のお部屋の入口に表札を設置したり、トイレ等もわかりやすく案内板を設置する等ご入居様が安心・安全で過ごして頂く空間作りに努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 のぞみの家 宮内

作成日 令和7年11月19日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念が共有されてなく、チームワークがない。離職率が高い。	「働く意義」を考えモチベーションの向上ケアに生かす。	新人研修やオリエンテーションにて理念を学ぶ機会を設ける。日々の義務と理念を結びつける。	12ヵ月
2	10	職員一人ひとりの力量が発揮出来ていない。	個人目標を設定し実行する。振り返り成長する。	OJTや集合研修を実施する。現場は一体となって育成に関わるチェックシートを利用する。	12ヵ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。